

DaqStation 遠隔設定ツール

操作説明書

目 次

1. はじめに	1
2. ソフトウェアの概要	2
3. 動作環境	3
4. セットアップ	4
5. 起動及び機器接続	5
6. 接続後の画面表示	7
7. 本体キー操作	8
8. アラーム設定	9
9. 記録開始	11
10. 記録停止	11
11. メッセージ	11
12. バッチ	12
13. 時刻設定	12
14. システム情報	12
15. バージョン情報	13
16. エラーメッセージ	14

DaqStation 遠隔設定ツール
Version 1.0.0.1

第一版：平成22年4月

1. はじめに

DaqStation 遠隔設定ツール（以下、本ソフトウェア）は、DX100/DX200/DX1000/DX2000 の記録開始・停止・アラーム設定・スナップショット表示・キー操作を、ネットワーク接続されているPCから行えるソフトウェアです。アラーム設定は、アラーム設定のみ送信しますので、DaqStation がメモリ中でも送信可能です。

また、本ソフトでメモリストार्ट・ストップが行えますので、DaqStandard による遠隔からのレンジやシステム設定の送信が可能です。

●注意事項

本ソフトウェアをご利用頂く場合、以下の点にご注意下さい。

- ①本ソフトウェアは著作権法上の著作物としての取り扱いを受けますので、当社に無断で複製することはできません。
- ②当社では、本ソフトウェアを使用した結果、又は本ソフトウェアの使用に起因する結果によって発生する影響に関しては、一切の責任を負わないものとします。
- ③パッケージ開封の際にご同意頂きました「ソフトウェア使用権許諾契約書」の内容を再度ご確認ください。

2. ソフトウェアの概要

本ソフトウェアは、ネットワーク接続されている DaqStation（以下、DX）に対して、以下の設定が行えます。

- 機器接続 IPアドレスを指定してDXに接続します。
ログイン機能を使用している場合は、ユーザー名、パスワードを入力します。
- アラーム設定 接続した機器のアラームを設定し、送信・受信します。
- メモリストート 接続した機器の記録（メモリ・演算）を開始します。
- メモリストップ 接続した機器の記録（メモリ・演算）を停止します。
- メッセージ DXへのメッセージ設定、及び選択したメッセージを書き込みます。
- フリーメッセージ DXへフリーメッセージを書き込みます。
- バッチ バッチ番号・ロット番号・バッチコメントを登録します。
- スナップショット DXのスナップショットを表示します。5秒毎の自動更新、F5キーによる手動更新が行えます。
- 画面操作 DISP/ENTER キー、画面切替キーによる画面操作が行えます。
- メニュー操作 設定モードメニューの操作が行えます。（基本設定メニューは不可）
- FUNC キー FUNC キーで画面下部に表示される各機能の操作が行えます。

各操作は、接続した機器に対してのみ行えます。複数台のDXに対して設定する場合は、機器接続で別のDXに接続して各操作を行って下さい。

通信で接続するために、ユーザー登録のモードで、Key+Comm 又は Comm を設定して下さい。

キーロック機能を使用している場合、ログイン機能を使用していて一般ユーザーで接続した場合、ロックされている機能は設定送信することができません。

その他の設定は、本体機器及び DaqStandard にて行って下さい。
本体機器及び DaqStandard の操作は、各マニュアルを参照して下さい。

3. 動作環境

- OS Windows2000 (SP4以降) /XP/Vista
- CPU Pentium4 以上
- メモリ 512MB 以上 (OSにより、快適に動作する容量を搭載して下さい。)
- ハードディスク 本ソフトウェアはファイルを作成しませんので、2MB程度の容量があれば動作します。但し、OSが快適に動作する為に、ある程度空き容量が必要です。
- インターフェース DXとの接続は Ethernet のみです。
DXとPCとの間で、ネットワーク接続ができるようIPアドレス・サブネットマスク等の設定を行って下さい。
また、ファイアーウォール・ウイルス監視ソフトを使用される場合は、本ソフトウェアがブロックされないよう設定して下さい。
- CDドライブ 本ソフトウェアのインストール用に必要です。
- ディスプレイ 800×600 ドット以上。
- 対象測定機器 DX100/DX200/DX1000/DX2000
同時に接続・設定できるのは、1台のみです。

4. セットアップ

本ソフトウェアのセットアップは、次の手順で行います。

1. パソコンを起動します。
2. DaqStation 遠隔設定ツールのCDをセットします。
3. 自動的にセットアップが始まります。
始まらない場合は、CDの **Setup.exe** をダブルクリックして下さい。
セットアップ画面が表示されます。
以降は、画面の指示に従ってセットアップして下さい。

セットアップ先のデフォルトは「C : ¥Program Files¥DX 遠隔設定ツール」です。

セットアップ終了後は、デスクトップ及びスタートメニューに「DX 遠隔設定ツール」のアイコンが登録されます。プログラム自体は、指定したフォルダに保存されます。

4. アンインストール

アンインストールする場合は、コントロールパネルのプログラムの追加と削除で行って下さい。

5. DaqStation 遠隔設定ツールのファイル

インストールされるファイルは以下の通りです。

●DxCom.exe	プログラム実行ファイル
●DaqStation 遠隔設定ツール操作説明書.pdf	操作説明書
●uninst.isu	アンインストール情報ファイル

本ソフトウェアは、**DxCom.exe** を起動するだけで実行可能であり、他のサブプログラム等の付随的なファイルを必要としません。

また、本ソフトウェアを動作することにより作成・変更されるファイルやレジストリはありません。

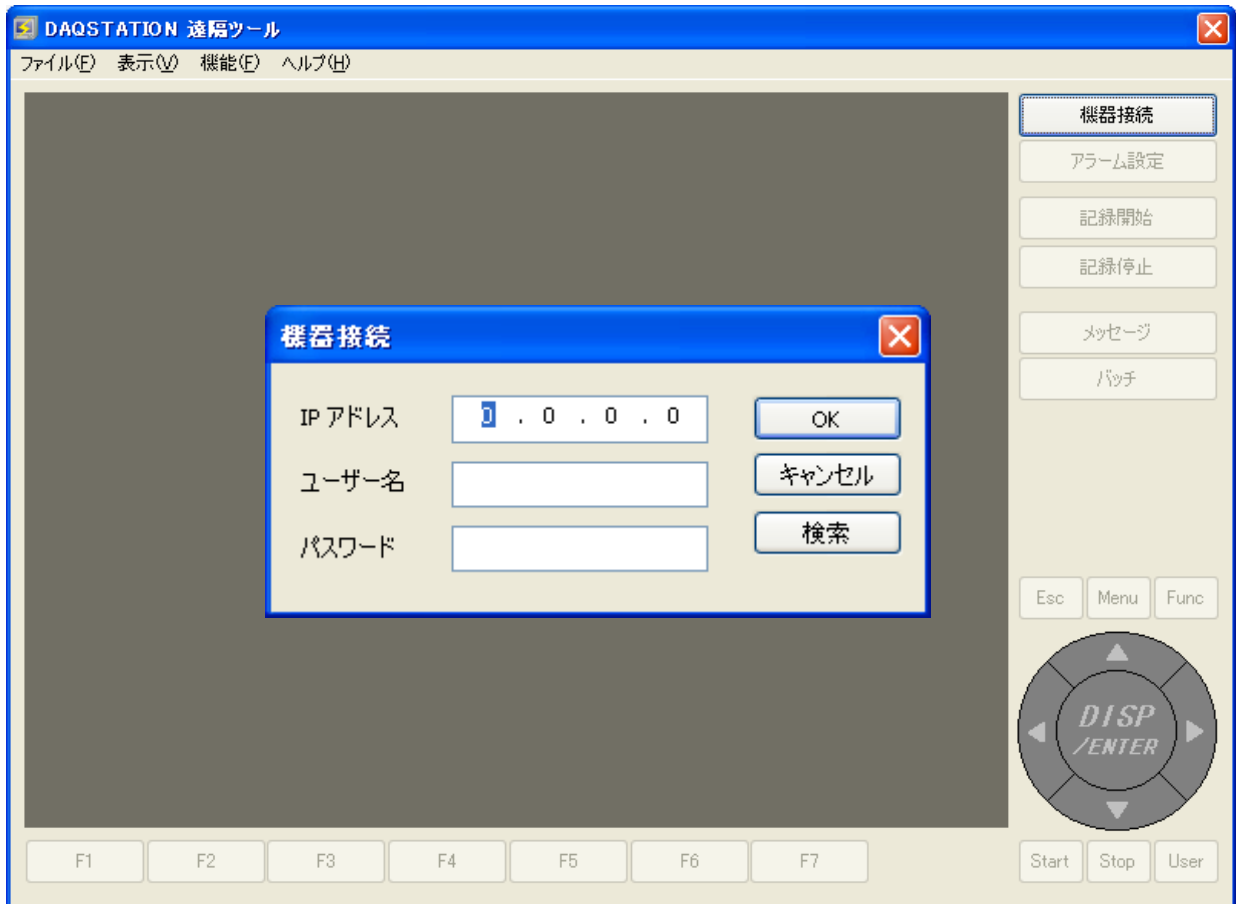
5. 起動及び機器接続

DaqStation 遠隔設定ツールは、セットアップで登録されたデスクトップのアイコンをダブルクリックするか、スタートメニューから選択することにより起動します。

又は、CDからセットアップせずに、CDの DxCom.exe をダブルクリックすることでも起動できます。



デスクトップアイコン



起動すると、DXに接続するための機器接続画面が表示されます。

接続するDXのIPアドレス/ユーザー名/パスワードを入力してOKボタンをクリックして下さい。

ログイン機能を使用していなければ、ユーザー名/パスワードは空白でかまいません。

又は、検索ボタンをクリックすると、ネットワーク上のDXを検索して一覧表示されます。

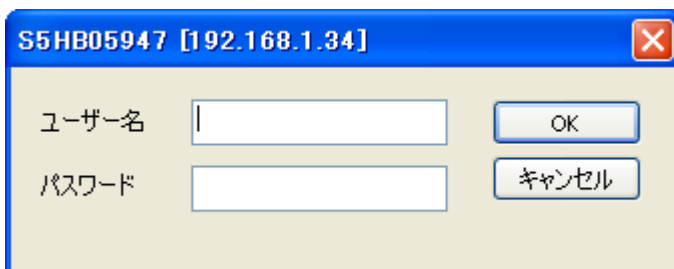


一覧から接続するDXを選択すると、機器接続画面のIPアドレスには選択したDXのIPアドレスが表示されます。

機器接続ボタン又はファイルメニューの「機器接続」を選択した場合も、機器接続画面が表示されます。各操作終了後、別のDXに接続する場合は、機器接続ボタンをクリックして該当するDXに接続して下さい。

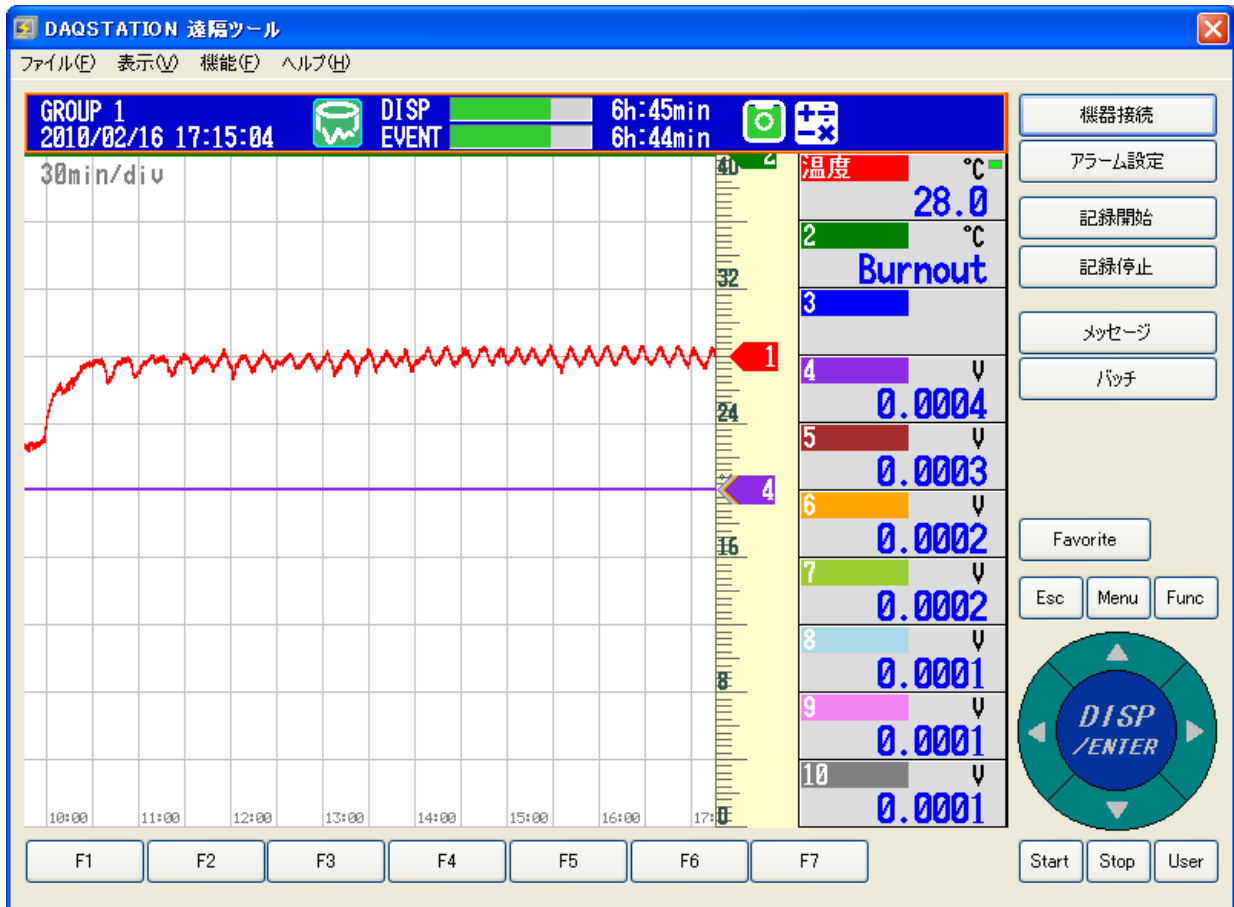
※ 3分間何も操作しないと、自動的にログアウトされます。

3分経過してから次の操作を行おうとした場合、下記画面が表示されますので、ユーザー名/パスワードを入力して下さい。タイトルバーには接続していたIPアドレスが表示されています。ログイン機能を使用していなくても表示されます。



6. 接続後の画面表示

DXに接続すると、DX画面のスナップショットを表示します。



この画面の各ボタンをクリックするか、メニューから選択して以降の各操作を行います。

●メニュー

ファイル	表示	機能	ヘルプ
機器接続※	数値キー表示	記録開始※	バージョン情報
終了	最新に更新(F5)	記録停止※	
	自動更新	アラーム設定※	
	システム情報	メッセージ※	
		バッチ※	
		時刻設定	
		イメージ保存	

※は、画面のボタンと同機能です。

ログイン機能及びキーロックを使用している場合、ログインユーザー及びキーロックの設定内容により行える操作に制限がかかります。操作が行えない場合は、DX本体の設定内容をご確認下さい。

●スナップショット

表示メニューの「自動更新」を選択すると、5秒間隔でスナップショットが自動更新されます。
もう一度選択すると、自動更新をストップします。

手動での更新は、表示メニューの「最新に更新」を選択するか、キーボードの F5 キーを押下して下さい。

●イメージ保存

機能メニューの「イメージ保存」を選択すると、名前を付けて保存画面が表示されます。

表示中のスナップショットを保存することができます。拡張子はPNGです。

7. 本体キー操作

画面の以下のキーは、DX本体キー操作と同じです。

各キーの機能については、DXのマニュアルを参照して下さい。

●DISP/ENTER

●上下左右の矢印キー

●Favorite

●Esc

●Menu

●Func

●Start

●Stop

●User

●F1~F7

●数値キー

表示メニューの「数値キー表示」を選択すると、数値キーが別ウィンドウで表示されます。



※キーの長押しはできません。

※記録中でないとき、基本設定モードに移行することはできますが、基本設定メニューの操作は行えません。

メニューキーを押下 → 基本設定モードを選択 → 基本設定モードへ移行のメッセージで「はい」を選択すると、基本設定モードに移行しますが、この状態になるとソフトウェアからのキー操作は受け付けなくなります。

この場合、DX本体操作で基本設定モードを抜けて下さい。

※Func キーを押すとユーザー選択画面が表示されます。この画面でユーザーを選択しパスワードを入力して、再度 Func キーを押すと Func メニューが表示されます。

8. アラーム設定

アラーム設定は、記録中でも行えます。

メイン画面のアラーム設定ボタンをクリックすると、DXからアラーム設定情報を受信して一覧表示します。

機能メニューの「アラーム設定」を選択しても同じ画面が表示されます。

一覧画面は、最大化表示や任意の大きさにウィンドウサイズを変更できます。

Ch	タグ	単位	アラーム1	設定値	リレー	アラーム2
Ch01	^ヤ1オン°	°C	H	40.0	I01	H
Ch02	^ヤ1シツ°	%RH	H	80.0	I01	H
Ch03	^ヤ1オン°	°C	H	40.0	I01	H
Ch04	^ヤ1シツ°	%RH	H	80.0	I01	H
Ch05	^ヤ1オン°	°C	H	40.0	I01	H
Ch06	^ヤ1シツ°	%RH	H	80.0	I01	H
Ch07	^ヤ1オン°	°C	H	40.0	I01	H
Ch08	^ヤ1シツ°	%RH	H	80.0	I01	H
Ch09	^ヤ1オン°	°C	H	40.0	I01	H
Ch10	^ヤ1シツ°	%RH	H	80.0	I01	H
Ch11		°C	Off	0.0	None	Off
Ch12		°C	Off	0.0	None	Off
Ch13		°C	Off	0.0	None	Off
Ch14		°C	Off	0.0	None	Off
Ch15		°C	Off	0.0	None	Off
Ch16		°C	Off	0.0	None	Off

設定するチャンネルをダブルクリックするか、選択して設定ボタンをクリックすると、チャンネル単位の設定画面が表示されます。

チャンネルを選択するとき、複数チャンネルを選択すると、設定した内容が選択した全てのチャンネルに反映されます。チャンネル選択は、Shift キーや Ctrl キーを押しながら選択すると複数選択できます。

チャンネル一覧画面にはタグと単位も表示されますが、設定できるのはアラーム種類・設定値・リレーのみです。

	種類	設定値	リレー
アラーム1	H	40.0	I01
アラーム2	H	35.0	I02
アラーム3	L	15.0	I02
アラーム4	L	10.0	I01

各項目を設定しOKをクリックして下さい。

●アラーム種類

選択できる種類は、チャンネルのレンジモード及び演算チャンネルによって異なります。

●設定値

設定値は、チャンネルのレンジ範囲外の値を設定すると、送信時にエラーとなります。

●リレー

実際にDXに搭載されている出力リレーに合わせて設定して下さい。

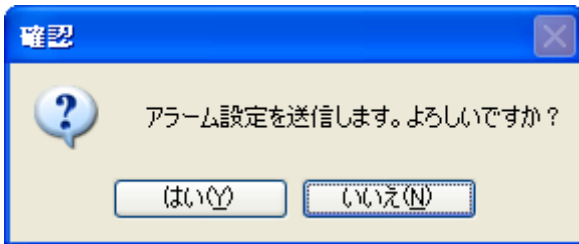
DXに搭載されていない出力リレーを選択・送信してもエラーにはなりません。

チャンネル毎のアラーム設定が終了したら、送信するチャンネルを選択します。送信対象は、選択されているチャンネル（反転表示）のみです。

チャンネル選択は、Shift キーや Ctrl キーを押しながら選択すると複数選択できます。



送信チャンネルを選択したら、送信ボタンをクリックします。



確認画面で「はい」をクリックすると、DXに送信されます。

アラーム設定送信は、DXが記録中でも送信可能です。

受信ボタンは、DXからアラーム設定値を受信します。

但し、メイン画面のアラーム設定ボタンをクリックし、チャンネル一覧画面が表示された時点で全チャンネルのアラーム設定値を受信しています。

※複数チャンネルを選択して送信し、途中のチャンネルでエラーとなったとき、以降の処理が中断されます。

その為、以降のチャンネルのアラーム設定は送信されません。

9. 記録開始

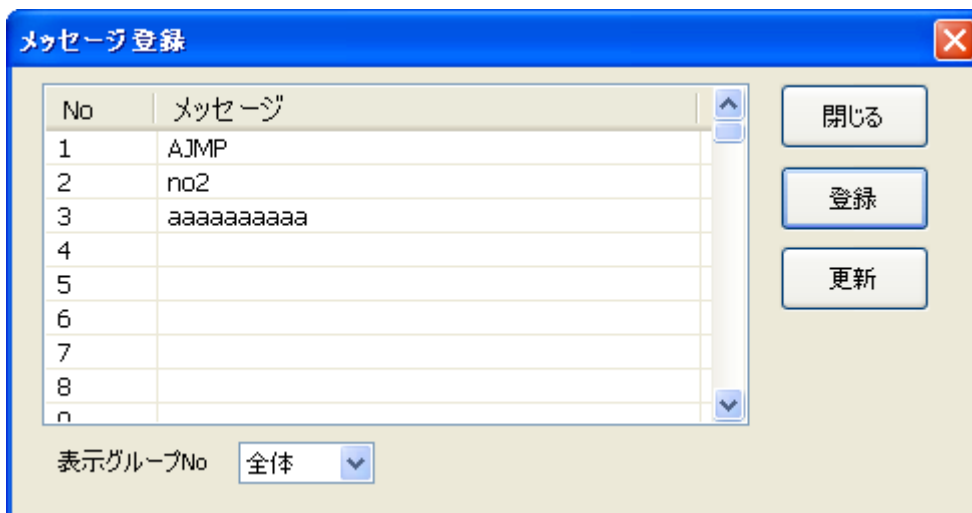
メイン画面の記録開始ボタンをクリックすると、DXのメモリ記録が開始されます。
機能メニューの「記録開始」も同機能です。
DXに演算オプション (M1) があるときは、演算も開始します。

10. 記録停止

メイン画面の記録停止ボタンをクリックすると、DXのメモリ記録を停止します。
機能メニューの「記録停止」も同機能です。
DXに演算オプション (M1) があるときは、演算も停止します。

11. メッセージ

メイン画面のメッセージボタンをクリックすると、DXからメッセージ情報を受信して一覧表示します。
機能メニューの「メッセージ」も同機能です。

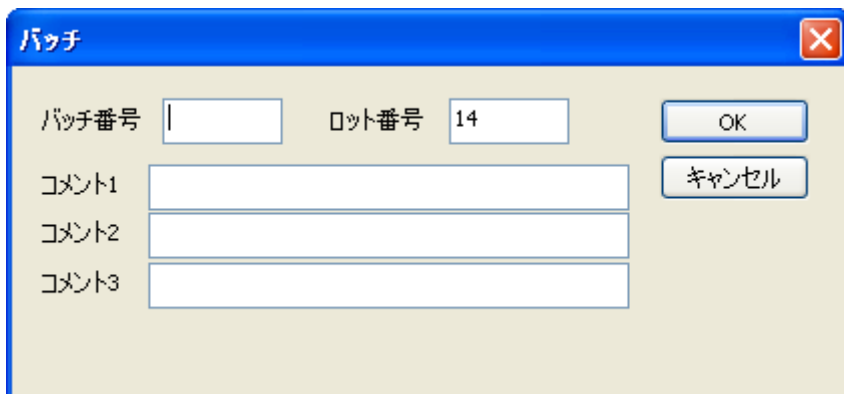


メッセージをクリックすると編集可能になります。
メッセージと表示グループを選択して登録ボタンをクリックすると、画面（トレンド）にメッセージが書き込まれます。表示グループ「全体」を選択すると、全てのグループにメッセージを書き込みます。
更新ボタンをクリックすると、DXに設定されているメッセージを更新します。

メッセージ登録は、記録中のみ行えます。

12. バッチ

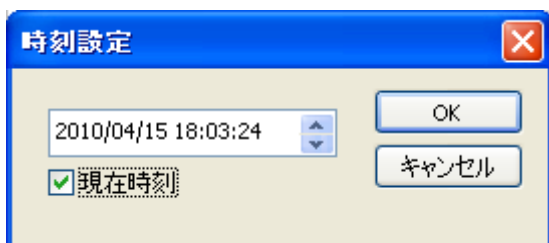
メイン画面のバッチボタンをクリックすると、DXからバッチ情報を受信して表示します。機能メニューの「バッチ」も同機能です。



バッチ番号・ロット番号は、メモリ中は変更できません。
メモリ停止中の場合は全ての項目が入力可能です。
OKボタンで、DXに設定されます。

13. 時刻設定

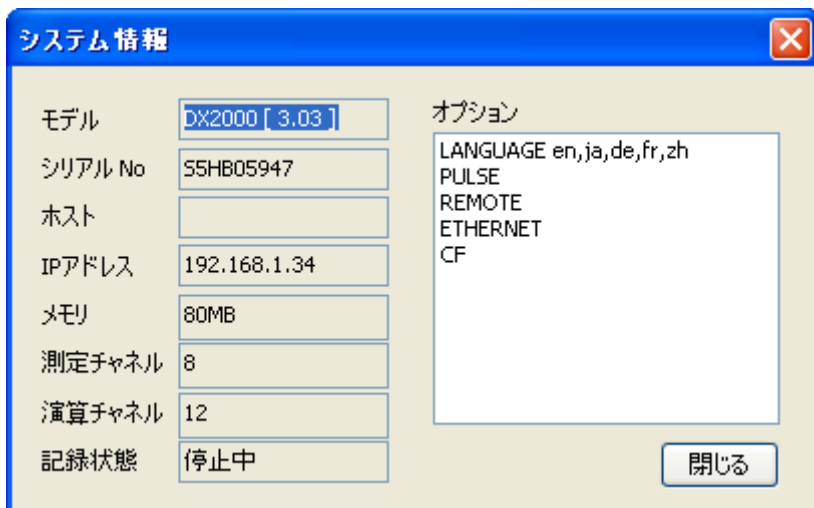
機能メニューの「時刻設定」を選択すると、DXに時刻を設定できます。



現在時刻をチェックするとPCの時刻を表示します。チェックしない場合は、任意の時刻を設定して下さい。
OKボタンで、DXに設定されます。

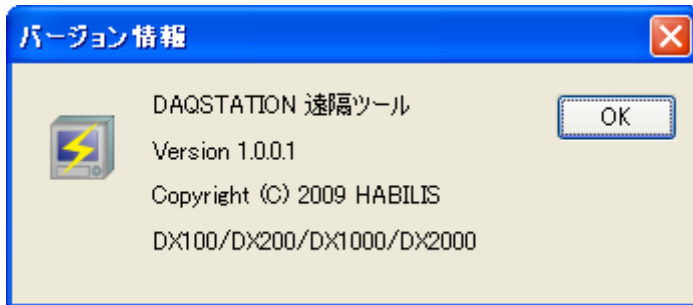
14. システム情報

表示メニューの「システム情報」を選択すると、DXの情報を受信して表示します。



15. バージョン情報

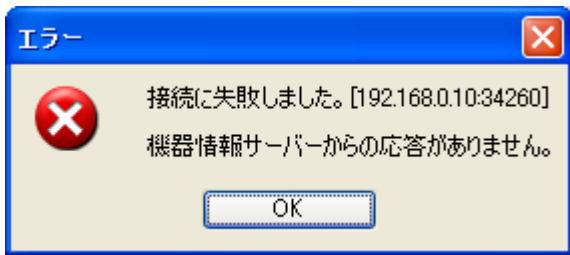
バージョン情報を参照するには、メイン画面のタイトルバーのアイコンをクリックして表示されるメニューか、ヘルプメニューから「バージョン情報」を選択して下さい。



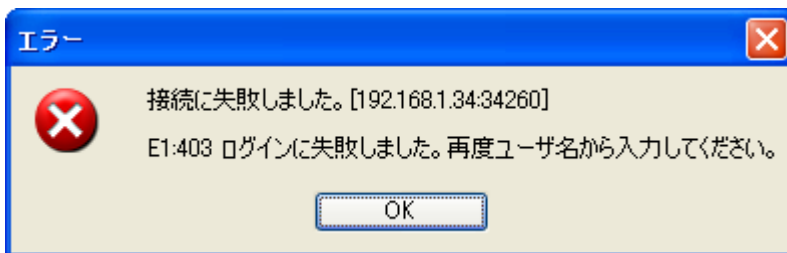
16. エラーメッセージ

操作中のエラーメッセージは以下の通りです。

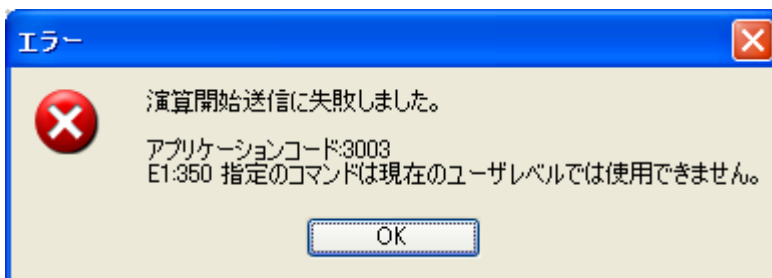
- 指定したIPアドレスの機器が存在しない



- 指定したユーザー名又はパスワードが正しくない

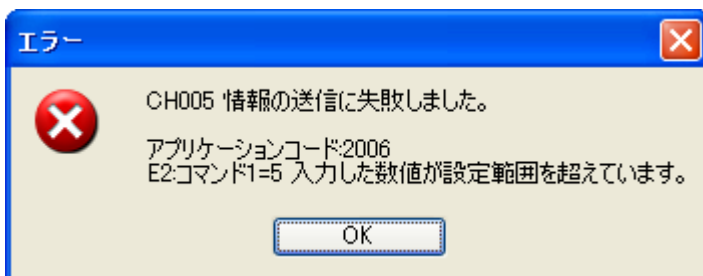


- 記録開始権限を持たない一般ユーザーで記録開始をした



※その他、該当処理の権限を持たない一般ユーザーで設定送信を行ったとき、メッセージ内容は異なりますが、同じエラーコードのメッセージが表示されます。

- レンジ範囲外のアラーム値を送信した



- 記録停止中にメッセージ登録をした

